

## 学校関係者の方々へ ～開発教育・国際理解教育関連のJICAイベントについて～

### ①中学生・高校生エッセイコンテスト2004募集のお知らせ

毎年恒例のエッセイコンテストですが、今年度は9月17日迄募集します。募集テーマは、開発途上国や国際協力、国際理解について考えていることについてです。たとえば「平和」、「私たちの未来と地球」、「青年海外協力隊になったら」、「開発途上国の人々とのふれあい」、「ボランティア活動を経験して」など、題は自由。自身の体験、本やテレビを通じて感じたことを書くエッセイでも結構です。副賞として約1週間の海外研修旅行もあります。ふるってご応募ください。募集要項等については各中学校・高校宛に送付していますが、お気軽にJICA札幌までお尋ねください。過去の優秀作品集についても余部がある場合はお渡しできます。詳細はJICAホームページ ([http://www.jica.go.jp/classroom/essay\\_boshu.html](http://www.jica.go.jp/classroom/essay_boshu.html)) でも紹介しています。

### ②高校生・大学生国際協力実体験プログラム募集のお知らせ

JICA札幌では、例年国際協力に興味がある高校生の皆さんに対し、生徒4名及び引率教員1名を1グループとして夏休み期間に2泊3日でJICA札幌に宿泊していただき、途上国からの研修員と交流を行ったり、国際協力に対する理解を深めるための参加型学習の実施、また各校の取り組んでいる国際協力について発表しあったりする、標記プログラムを例年実施してきました。(昨年度の実施については



エッセイコンテスト2003JICA札幌表彰式



昨年度の高校生国際協力実体験プログラムでのひとこま：世界の富の不均衡についてジュースの分配を例にして参加型学習を行いました



平成15年度教師海外研修の様子  
(フィジー派遣の先生方と現地小学生)

<http://www.jica.go.jp/branch/hics/jigyo/highschool/030805.html> でごらんいただけます)

今年度からはこれに加えて、国際協力に興味のある大学生1~2名を各グループに組み合わせた、高校生・大学生合同のプログラムを計画中です。

参加に係る経費(学校からJICA札幌までの交通費及びJICA札幌宿泊費)は当方で負担します。募集については6~7月に北海道教育庁生涯学習振興課及び北海道高等学校国際教育研究協議会を通じて行いますが、興味のある方は直接JICA札幌にお尋ねいただければ詳細について説明申し上げます。本年度は8月16~18日の実施予定です。

### ③平成16年度教師海外研修の実施について

昨年度までJICAでは全国一斉に中小高校教師を対象にした教師海外研修を夏休みに実施してまいりましたが、今年度からは地域ごとの実情に合わせた実施を各センターごとに行うこととなりました。

JICA札幌及びJICA帯広では両センター合同で、今年度は冬休み(1月上旬)に10日間程度のエジプトへの派遣を計画中です。

募集については7~8月に行う予定です。募集要項については道内各校に送付することとなっておりますが、JICA札幌ホームページでも案内をいたしますので <http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#sapporo> を参照ください。

何故ボランティアなのか？また、海外に行って自分が何の役に立つことができるのか？日本でボランティアを経験していたのか？挙げると際限がないが、世間一般では必ず浮かぶ疑問と思われます。

これまで多くの志願者と、直接対話を通して感じた事の一つとして、ボランティア事業とはつまり究極の人材育成事業なのではないかということである。確かに、協力隊の目的として、自分の能力・経験を活かし、開発途上国の人材育成・国づくりに寄与するとあるが、必ずしもこのアウトプット(技術協力)だけが協力隊の目的ではなく、結果的には当然現地からのインプット(赴任国の同僚・友人から学んだ「何か」)が得られるはずである。

志願者の中には、ボランティアに関する問合せの途中から、自身の人生相談まで私にしてくださる方もいる。私個人の意見としては、

単なる技術援助・移転を至上の目的に据える人よりも、自分自身の人生を賭けてまでボランティアに参加したい人を現地に送り出したというのが希望である。そしてその様な人達が、現地でインプットしてきた異文化体験から得た世界観を、今



JICA国際協力出前講座で日本の小学生に対し、マラウイで覚えた廃物利用のサッカーボールの手作りを伝授

度は日本に戻ってから再度アウトプット・開発教育(国際理解教育)という形で還元してもらうことも重要で、これが「JICA国際協力出前講座」と呼ばれているプログラムである。私自身も講師としてこれまで、10回以上講演(授業)をさせていただき、それにより多くの事を学習し、また考えさせられました。

講師として話す度に、自問自答していた事は「開発途上国の諸問題を挙げるのはいいが、では自国・日本はどうなんだ？」という考えである。学校の生徒にも、「自分ができる事」としてすぐに古着・文房具の寄付などだけに参加するのではなく、自分の身の回りの問題(学校・地域・家族)にも目を向けて考えてもらいたいとお話ししてきました。

この様に、1年3ヵ月という短い期間でここまで多岐にわたる業務に関わることができ、間口がさらに広がったと同時に、新たに幾つかの問題意識も生まれました。今後はそれらを自分自身である程度消化し行動に結びつける為、カナダのトロント大学大学院で教育について再度学び直す予定です。そして将来的には、また北海道の地へ戻り地域のために何らかの貢献ができればと考えております。日々学習し努力していきますので、今後の私に是非期待していただきたいと思います!!

ディクベラ!!

※ディクベラ：アフリカ・マラウイ共和国の現地語で「私は戻ってくる」の意。